

VISTA 1 ユーザーレポート

学校法人/専門学校 東京ビジュアルアーツ 様

Vista 1-32F

**TOKYO
VISUAL
ARTS**

テレビスタジオ教室の音声卓をVista 1で更新



学校法人/専門学校 東京ビジュアルアーツ
学務部 放送学科
鈿持 吉秀

スタジオ更新検討

当校では10年以上テレビスタジオ教室にてアナログ音声卓を使用して授業をしてきました。2000年代はじめ頃からスタジオのハイビジョン化工事を進めていましたが、音声卓に関してはデジタル化をしてきませんでした。授業内で学生たちには音声卓のオペレーションだけではなく、パッチケーブル、アナログパッチ盤を駆使したシグナル・ルーティングなどアナログ的な発想、構築を主体に授業を行った方が学生の理解が深まると考えていたからです。しかし、実際に学生たちが卒業後就職する企業が使用されている設備は、更新が進み、本校との設備との差異も少なからずともあり、教育面を考慮し、昨年いよいよアナログ音声卓も限界を迎えたことがきっかけで更新が決定しました。

機器選定にあたって

サブスタジオの構築から保守を依頼している共信コミュニケーションズ様に新規システムに関してアドバイスを依頼したところから、

更新検討が始まりました。学生に根幹の部分をしっかり学んでほしいという本校の趣旨と、それに基づいた授業に実現する為、機材選定には時間を掛けました。現実的に予算にも限りがありましたが、Pro Toolsを含むマルチトラックレコーダーとの連動を実現できる機材という本校としての希望を汲んでいただいた結果、STUDER製VISTA 1が候補として上がりました。

VISTA 1の印象

実機を見ることが一番と、VISTA 1をデモして頂きました。第1印象は、デジタル音声卓でありながらアナログ音声卓的な思考で操作ができる音声卓であるという印象が一番先に入ってきました。アナログ音声卓の良いところを踏襲していることが、本校の機材への要望を満たしてくれました。また、「見た目がかっこいい」のも好印象でした！

更新から授業へ

年度跨ぎの時間のない中での設置工事、機材設定だったため、職員も授業開始までに機材オペレーションを習得する時間がほとんどありませんでした。オペレーション・トレーニングに関しても、なんとか時間を作り、

設置後レクチャーを行って頂き、在校生と共に受けました。上記のアナログ音声卓的な思考で運用ができる点が功を奏してか、今までアナログ音声卓で学んできた学生たちも容易に操作を習得し、年度頭から授業内で大きな問題も起きることなく運用ができました。

本校として

授業内での学生たちのモチベーションの向上にも、もちろん繋がっていますが、募集活動においても大きな力を発揮してくれています(やっぱり見た目もかっこいいからでしょうか!)。最後になりますが、番組制作を企画段階からMA作業、そして完パケと全工程を授業内で実施している当学科としては、VISTA 1導入によって、学生たちが羽ばたいていく、多くの現場に近い環境を整えられたと考えています。

